

韓国 LCC (格安航空会社) 研究

飛田雄一

10 月初め、韓国済州島で第 9 回日韓 URM (Urban Rural Mission) 協議会に参加した。参加者は日本から 19 名、韓国から 30 名であった。その第 1 回は 1978 年のことで、当時韓国 URM が支援する東一紡績労組争議の真ただ中で、非常に緊張したが意義深い交流であったことが思い出される。それが私の初めての韓国訪問だったのだが、そのときのことを『むくげ通信』48 号 (1978.5) から 4 回にわたって書いている。いま読んでもういいいしいい(?) 文章だ。

帰国時、東一紡績のチラシを持ち出したとしてメンバーが金浦空港で一時拘束されたりもした。私はそんなことはつゆ知らず、釜山から無事帰国した。が、他のメンバーは金浦空港で「トビタはどこいった」とひつこく聞かれたという。韓国の入管職員が飛田を「ひだ」と読まずに「とびた」と読んでくれたので、助かった? ようだ。今のようなコンピュータ社会ではこうはいかないと思う。

今回の協議会のことはさておき、ここでは最近話題になっている韓国 LCC について、レポートしてみようと思う。LCC のパンフレットは済州空港で入手したが、済州島には KAL、アジアナのほかに、国内線 LCC が本当に頻繁に往来している。国際線ターミナルの混雑はたいしたことがないが、国内線は本当の多くの客でごった返していた。もともと韓国ではハイキングが盛んだが、最近整備された「済州オルレ」というハイキングコースに多くの人がソウルなどから訪れているのだ。

私は今回の関空 - 済州の往復を 51,000 円

で購入したが、高い感じがして俄然 LCC 研究をスタートしたのである。

最優空港で 4 種のパンフレットをゲットした。その 4 社をまず紹介する。

済州航空



国際線は、仁川 - 関空、金浦 - 北九州、仁川 - バンコクが毎日 1 便運航している。国内線は、金浦 - 済州が日に 9 便、釜山 - 済州が同 3 便、清州 - 済州が同 2 便と充実している。料金は曜日によって異なるが、平日の金浦 - 済州は 58,800 ウォンとあるが、後に述べるようにいろんな運賃がある。

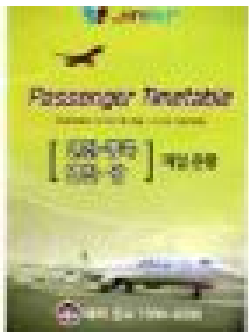
イースタージェット



国際線は週 2 回、仁川 - コタキナバルが飛んでいる。国内線は、金浦 - 済州が日に 15

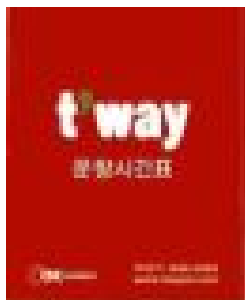
便、清州 - 済州が同 2 便、群山 - 済州が 1 便だ。平日金浦 - 済州の早割 19,900 ウオン（1400 円？）とある。国際線の清州 - 延吉（中国）も不定期で飛ばしているようだ。

JINAIR



国際線で仁川 - バンコク、仁川 - ガムが毎日運航とある。国内線は金浦 - 済州が 17 便と多い。

t's way



これは国内線のみで、金浦 - 済州が 1 日 8 便だ。

そしてもう一つ**エアブサン**がある。パンフレットがないので、ホームページからロゴを拝借した。国際線は、関空 - 釜山、福岡 - 釜山が毎日 1 便飛んでいる。国内線は、金浦 - 済州が日に 30 便、釜山 - 済州 20 便というから驚く。



むくげの会は来年 2 月の韓国合宿は「浦項」

で開くが、そのためのチケット（関空 - 釜山）をインターネットで予約した。なんと往復 9,900 円だ。これに燃料チャージ 1,000 円、空港税等 4,360 円、計 15,260 円。新幹線、神戸 - 東京の片道分 + 少し、だ。キャンセルはできない。インターネット上で会員登録をした上で便などを指定していくのであるが、それほど複雑な操作ではない。ホームページは、英語、韓国語、日本語がある。クレジットカード以外の決済では少々ややこしそうだが、カード決済にすると本当に簡単に予約できる。正確には予約 = 購入である。

なんでこんなに安いのか。先日 NHK のクローズアップ現代で LCC を取り上げていた。済州航空を例にして、さまざまな運賃で販売する戦略が紹介されていたのである。

まず、早割は 80%？引きとかで 1/5？ほどの席を販売する。次に正規の運賃で販売する。残ったら「値引き、値引き」をしてぎりぎりまで販売する。飛行機会社としての登録方法が従来のものと異なり、販売価格は会社側で決定できることになっているのでこのようなことが出来るとのことだ。済州航空の場合平均 80% の乗車率を確保しているそうだ。料金としては、荷物代、食事代等は別途徴収される。また「飛行機の整備士は支店長になれるけど支店長は整備士にはなれない」とのことで、整備士免許のある人が支店長を兼ねて整備もしているそうだ。徹底して合理化をして経費を削減しているのである。

「安かろう・・・」では問題だが、韓国までたった 1、2 時間。立ったままの飛行機（開発中とか）は困るが、少々席が狭くても、ビールが有料になってもよしとしよう。済州島の友人情報では、韓国 LCC 国際線は 10 分前にでも少額の手数料を支払えば変更可とのこと、それも別会社でも OK。いや、よくやる。これから LCC で韓国をウロウロするのだ。